

私は大学・大学院を室蘭で過ごし、札幌の地質調査会社を経て、地元釧路市の建設会社に勤めています。昨年度まで土木工事の技術的な経験を積み、今は経営陣の一人として社内管理全般に携わっています。平成30年度の技術士取得に際しては、職場や道東技術士委員会の先輩技術士の方々から熱心にご指導賜りました。この場をお借りして、改めて厚くお礼申し上げます。

私は釧路沖地震、北海道東方沖地震、十勝沖地震などの地震災害を体験し、特に液状化被害によって自分の背丈以上に突出したマンホールの記憶が忘れられず、災害や地盤に関わる職業を志望しました。

6年間在籍した上山試錐工業の経験は、土質的問題を抱える軟弱地盤地帯を有する釧路での工事に活かすことができ、大きな財産となっています。現在勤務する阿寒共立土建は曾祖父が昭和3年に創業した建設会社で、私が家業を継ぐ決意を固めたのは、70%余りの道内中小企業が後継者不在である現状を知ったためです。弊社は道路、農業を始めとする土木工事業の傍ら、自社特許機械による昆布漁場の磯焼け対策事業も手掛けています。昨今の釧路地方は人口減少、主力産業の衰退にくわえ、巨大地震の切迫化など課題が山積しています。このような情勢の中で、安定した雇用創出や防災・減災、産業振興など地域持続性の確保には、「地域の担い手」たる地場建設会社の存続が益々重要であると感じています。

また私は、青年技術士交流委員会に所属しています。最近はオンライン会議、講演会がメジャーな手法となり、全国の若手技術士の方々と情報交換が可能となりました。今後も様々な分野から刺激を頂き、幅広い視野を養うことに努めて、地域を支える一技術者として研鑽を積み、精進して参ります。

阿部 和弘 (あべ かずひろ)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

阿寒共立土建株式会社



→次号は、藤井貴弥さん(建設部門)

かつて「地図にない湖」と言われた新潟の亀田郷で生まれ育ちました。父は水道屋でしたので日曜日は手伝い。おかげで今でも水道用パイプは握れば径がわかります。高校では文系でしたが、大学・大学院では化学工学を学び、運よく室蘭工業大学で教職を得ました。大学でJABEE対応の教育を実施することになったため、学生達の道標になろうと考え、技術士を目指しました。一次試験

は身体で覚えている上下水道部門で無事合格。二次試験は化学部門で受験し、運よく受験1回目で筆記試験を通過。渋谷・道玄坂での口頭試験は9:00-9:45、ホテルのチェックアウト時刻は11:00。受験票だけ持って試験会場へ行ったら試験官の方々に爆笑されました。口頭試験が始まれば当然針の筵状態でしたが、運よく合格できました。以降、民間企業の方々から技術士という同じ「ものさし」で見てもらえるようになり仕事の幅が広がりました。建設業の方々と仕事をする際、「0点の男でございます」と挨拶すると皆さん困惑した表情になりますが「化学部門は総合評価落札方式で加点されません」と説明すると笑顔で納得してくれます。「研究のための研究」ではなく「社会実装のための研究」を心がけていますが、これまで実装に至ったプラント・装置はまだ2つしかありません。「3つ目」は間もなく実装という段階ですので「4つ目」を目指してアイデアを練っています。でも、傍から見たらサボっているようにしか見えないそうです。私が目指す最終形態は「ポンコツ」です。そう呼ばれるためには今のうちに少しは役に立っておかないといけません。「やるべきこと」>「やれること」>「やりたいこと」の順で優先順位をつけ、多くの方々に支えられながら「常に初陣」で仕事と向き合っています。

大平 勇一 (おおひら ゆういち)

●化学部門

勤務先

室蘭工業大学大学院工学研究科
しくみ解明系領域



→次号は、堤 大祐さん(情報工学部門)